

2024年度 町田市立木曽中学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月31日

学校教育目標	・知性を磨き	・意志を鍛え	・健康な心とからだをつくる	学校経営の重点	○授業力の向上	○生活指導力の向上	○キャリア教育の推進	○特別支援と不登校対策の充実
○目指す学校像……………○全ての生徒が「楽しい」と思える学校 ○個が生き、相互に関わり合うことで集団として高め合える学校 ○保護者、地域と共にある魅力ある学校 ○目指す児童・生徒像……………○当たり前のことを当たり前に行う生徒 ○目標に向かって前向きに取り組む、また、課題に対しては自ら解決を図ろうとする生徒 ○目指す教師像……………○教育への情熱をもち、専門性を高め、常に生徒のよりよい育成を考えた指導を目指す教師 ○社会人としての常識を踏まえ、教育公務員であることの自覚をもち、公明正大で人間愛に溢れている教師 ○生徒、保護者、地域の願いに応えるべく努力を続ける教師 ○ワークライフバランスのとれた働き方を意識して、心身の健康に留意し、効率的に校務を遂行する教師				重点目標の成果と課題 ・授業力の向上に関しては、ICT機器の活用や話し合い活動の充実、校内研修による教員間の授業公開等に取り組んでいる。Qubenaの積極的な利用が課題となっている。 ・生徒の情報については校内の各委員会等で共有され、生活指導主任を中心に、生活指導にあたっている。 ・1年生での職業講話、2年生での職場体験活動を中心に各学年でキャリア教育に関する取組を行い、総合的な学習の時間を活用し発表活動等も充実させている。 ・校内委員会で特別支援や不登校対策に関する情報共有を行いエンカレッジルームの運用を行っている。エンカレッジルームは、生徒が教室に向かうための仕組みとして活用が進んでいる。				

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○ %	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	時機を得た積極的な情報発信を行い、開かれた学校、見える学校づくりを進める。	学校だより、学年だより、ホームページによる発信を計画的に行い、学校の情報を定期的に発信する。	4 たよりを学期に3回以上、HPIは月4回以上の更新 3 たよりを学期に2回以上、HPIは月3回以上の更新 2 たよりを学期に1回以上、HPIは月2回以上の更新	4	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	88.7	A	各種便りやホームページ等の情報発信に関しては取組、成果ともに良好な評価となった。 アンケートの回収については目標を下回った。特に2回目のアンケート回収率が大きく低下した。	学校だよりをはじめとした各種便りやホームページでの情報発信については次年度も継続して進める。 各種アンケートの実施については、実施時期を吟味し、特に2回行う学校評価アンケートについては、時期が連続しないよう1回目と2回目のアンケートの実施時期に十分な間を空けて実施し、アンケート回答を促すアナウンスを行う。	学校だよりやホームページ等の情報発信はタイムリーな内容で先生方の工夫が感じられる。ICT活用も教員研修も重ねられているとのこと。先生方の努力が伺えるし、生徒も使いこなせている実態は学校に来て見なければわからない。小学校と違い毎日クロムを持ち帰らない中学生の親は定着感を感じにくいかもしれない。	B
			各種アンケートや学校評価をICTを活用して行い、回収率を80%以上にする。	4 アンケートの90%以上で取組を実施 3 アンケートの80%以上で取組を実施 2 アンケートの70%以上で取組を実施 1 アンケートの70%未満で取組を実施	4	A	4 アンケート回収率80%以上 3 アンケート回収率70%以上 2 アンケート回収率55%以上 1 アンケート回収率55%未満	52.5	D	Qubena等ICTを活用した課題を計画的に活用しきれないが、朝読書の時間を活用したQubena使用の取り組みを2学期以降継続し、週1回以上取り組む生徒が61%となった。	家庭学習でICT活用を促すために、Qubenaを活用した課題の設定を教科ごとに促すとともに、朝学習の時間を利用したQubena使用の取組を次年度も継続して行う。	毎回課題になるアンケート回収率だが、親の感心度の問題もあるかもしれない。質問の内容・文言も見直す必要があるのではないか？	
			課題やICTを活用して、家庭学習を定着させる。また、長期休業等では、Qubenaを活用した学習に取り組む。	4 90%以上の教員が計画的に実施 3 80%以上の教員が計画的に実施 2 70%以上の教員が計画的に実施 1 70%未満の教員が計画的に実施	2.1	C	4 80%以上の生徒に定着 3 70%以上の生徒に定着 2 55%以上の生徒に定着 1 55%未満の生徒に定着	61	C	地域人材の活用については、事前に計画したものに関しては活用が進んでいるが、まだ活用する余地はある。実施したものに關しては情報を発信していることから、保護者への認知は向上している。			
			教育活動に対して、計画的に保護者や地域人材の活用を図る。	4 計画した教育活動の90%以上の割合で実施 3 計画した教育活動の80%以上の割合で実施 2 計画した教育活動の70%以上の割合で実施 1 計画した教育活動の70%未満の割合で実施	2.1	C	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	67.7	C				
確かな学力の育成	授業改善を進め、基本的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	幅広い知識と教養に裏付けられた専門性を高め、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の定着を図る。	学習規律や板書等の共通理解を図り、生徒の学ぶ意欲を高める授業を実現する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.4	B	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	91	A	学習指導や学習規律に関する共通理解は、学年や学校全体を通じて図られており、板書や掲示物等の授業におけるユニバーサルデザインに関しても各教員が意識して取り組んでいる。	落ち着いた学習環境の維持に向け、学習規律の維持、教室の掲示物や板書等の授業に関するユニバーサルデザインに関する共通理解を引き続き行っていく。	授業については生徒へのアンケート結果はともよい。海外からの転入生も増えてICTも活用しながら先生方の苦悩も伺える。	A
			ユニバーサルデザインの視点をもって生徒が安心して学べる授業を展開する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.4	B	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	93.1	A	主体的で対話的な学びを深める授業については、各教科で授業内で工夫をした展開を教員は心掛けて実践している。しかし授業の展開によって、話し合い活動以外の学習活動にも多くの時間が割かれていることもあり、その影響も考えられる。ICT機器を活用した授業は多く取り入れられているが、一人一台端末を利用した授業の推進に関しては、使用場面がまだ限られている部分もある。	この設問の具体的方策3段目の成果批評がCと低めだが、生徒の自己評価として、自分が思ったほど成果が出せてない結果の66%ならさほど低いとは言えないのでは？		
			生徒が主体的に学ぶ機会を設定したり、対話的な学びを深めたりする授業を計画的に展開する。	4 90%以上の単元で実施 3 80%以上の単元で実施 2 70%以上の単元で実施 1 70%未満の単元で実施	3.3	B	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	66	C			？	
			ICTを効果的に活用し、生徒が一人一台のPCを使い、学力の向上を図る。	4 活用できる場面の90%以上の単元で実施 3 活用できる場面の80%以上の単元で実施 2 活用できる場面の70%以上の単元で実施 1 活用できる場面の70%未満の単元で実施	2.1	C	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	78	B			落ち着いた環境での授業は学力アップにもつながるので今後も継続して	
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	「特別の教科 道徳」を要として、教育活動全体を通して、自分を理解し、相手を尊重し、生命を大切にすると、相手を思いやる心を育む。	「特別の教科 道徳」の授業において、自他や生命を大切にすると指導を継続的に行う。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.5	A	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	96.6	A	特別の教科 道徳の授業においては、学年教員が協力し、計画的に指導している。いじめ防止に関する取組も計画的に進めている。	人権尊重の意識を高める指導は継続して行っていく。特にいじめ防止に関する取組は学校いじめ対応チーム定例会の定期的な実施をはじめとして、情報共有の場を密にとる体制を維持継続していく。特別の教科 道徳の授業では、引き続き学年教員が協力し計画的に進めている。	人権尊重やいじめに対する学校の取り組みは素晴らしいと思う。道徳の授業を参観させてもらったが、教員の授業づくりも評価できる。ICT活用によりキャンパス等での自分の意見を皆が見える形で発表でき、発表する緊張感や抵抗感なく自分の意見を発表するハードルをグッと下げていると感じた。不登校生徒への対応には、課題も多いと思われるが、家庭と教室の間にある居場所としての「エンカレッジルーム」は理想ではあるが、常時解放できるのが望ましい。	A
			人権尊重の教育活動を進め、生徒の日常的な挨拶を推進し、「挨拶の木曽中」を実践する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.5	A	4 生徒アンケート満足率80%以上 3 生徒アンケート満足率70%以上 2 生徒アンケート満足率55%以上 1 生徒アンケート満足率55%未満	94.7	A	あいさつに関する取組については、生徒会によるあいさつ運動の実施や、教職員による日常的な指導によりおおむね実践されていると考えている。	必要の支援について検討する校内委員会は、毎週金曜日に定期的に実施され、特別支援や不登校、エンカレッジルームの運用に関して検討を継続している。	「あいさつの木曽中」他校に比べればできていると評価しているが、以前より減ってきた感がある。生徒に強要するだけでなく、まず大人がお手本になる意識で継続して努力してほしい。	
			様々な障がいや多様性を理解し、生徒が安心して登校できる環境を整え、一人一人を高め伸ばしていくような教育活動を行っていく。	4 年間の90%以上で実施 3 年間の80%以上で実施 2 年間の70%以上で実施 1 年間の70%未満の実施	4	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	81.4	A	あいさつに関する取組は継続して行っているが、生徒会を中心に新たな取組を検討し、あいさつの励行について、継続して取り組む。	校内委員会は週1回の定期開催を維持し、エンカレッジルームの効果的な運用についても検討していく。		
			不登校の生徒が利用できるスペース「エンカレッジルーム」の体制を整え、不登校対策に取り組む。	4 授業日は毎日開室する 3 授業日の80%以上で開室 2 授業日の70%以上で開室 1 授業日の70%未満で開室	2.9	C	4 不登校生徒数が全校生徒数の2%未満 3 不登校生徒数が全校生徒数の4%以上6%未満 2 不登校生徒数が全校生徒数の6%以上 1 不登校生徒数が全校生徒数の6%以上	5.8	C	エンカレッジルームの開室日については、生徒のニーズに応じ時間を区切った運用を継続している。			
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、丈夫な体を作り、体力の向上を図る。	養護教諭と連携し、健康診断や検診等の機会を捉えて、健康教育を推進する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.2	B	4 生徒アンケート満足率80%以上 3 生徒アンケート満足率70%以上 2 生徒アンケート満足率55%以上 1 生徒アンケート満足率55%未満	78	B	生徒は日常から健康への関心をしっかりとっており、健康診断等をきっかけとした健康教育について、教職員は意識して取り組んでいる。	今年度より3年生でいのちの授業を実施するが、これを木曽地区協議会の協力を得て、次年度以降も継続して、実施していく。	この設問に対しては、学校の問題というより家庭の問題。 学校ができる取り組みとしては正しい生活習慣を保つことや食事の大切さなど、できる限り取り上げ、生徒や保護者に考える機会を増やすことだろうか。運動についても日常化は難しい。成長期の子どもの体づくりに部活は大きな役割を果たしているといえる。	A
			体育科の授業を中心に、生徒自らが目標を立てて、日常的に運動に取り組むよう指導する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	2.5	C	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	82.3	A	運動の日常化に向け、部活動をきっかけとした生涯スポーツの意識を持たせる活動だけでなく、すべての生徒が実施する体育の授業週3時間の中で、持久走等の継続的な取組を検討する。			
			二丁にに応じた避難訓練や安全指導を毎月実施し、生徒自ら危険や危機に対応できるよう指導する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.5	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	90.3	A	避難訓練では、様々な場面を想定した訓練を継続して行う。また校外での生活も含めた安全指導も関係機関と連携して行う。自転車乗車時のヘルメットの着用、ながらスマホの禁止、暴風に襲われそうになった場合の身の守り方など実践的な指導を計画していく。			
			生徒の問題行動や安心・安全等に関わる情報を共有し、組織的な指導、支援を行う。	4 90%以上の必要情報に対して実施 3 80%以上の必要情報に対して実施 2 70%以上の必要情報に対して実施 1 70%未満の必要情報に対して実施	3.6	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	78.8	B			教職員の顧問に対する実質的評価ということで、今の形	

取組指標の評価基準例(結果数値からABCD評価へ)

取組指標平均	3.5以上	⇒ 評語A
取組指標平均	3以上3.5未満	⇒ 評語B
取組指標平均	2以上3未満	⇒ 評語C
取組指標平均	2未満	⇒ 評語D

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

成果指標評価基準例

成果指標平均	80%以上⇒評価A
成果指標平均	70%以上⇒評価B
成果指標平均	55%以上⇒評価C
成果指標平均	55%未満⇒評価D

学校関係者評価の評価基準について

A⇒	取組・成果ともに十分評価できる
B⇒	取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒	目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒	重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。